

地理A、地理B

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

地 理 A

1 前 文

平成29年度の大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）「地理A」の受験者数は1,901人（本試験）で、昨年度に比べ96人の増加となった。一方、A科目の全受験者5,789人に占める「地理A」受験者の割合は約32.8%で、「日本史A」の約44.2%に次ぐ高い選択率であった。

本試験の「地理A」平均点は57.08点で、昨年度と比較して4.94点上がり、地理歴史科A科目の中では「地理A」が最も高い平均点である。また、A科目の科目間においては、最高の「地理A」と最低の「日本史A」の平均点の差が19.61点であり、昨年度より11.33点大きくなっている。

なお、試験問題の具体的な検討に当たっては、例年どおり次の視点から行った。

- (1) 高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）の目標、内容及び、教科書や学習状況を踏まえた内容になっているか。
- (2) 基礎的な知識の定着、並びに地図や統計資料などを分析し考察処理する能力を測定し、地理的な見方や考え方を問うことのできる内容になっているか。
- (3) 特定の分野や地域に偏ることなく、総合的な理解力を問う内容になっているか。
- (4) 問題文や選択肢の表現、難易度、形式、配点及び正答率等に偏りがないように配慮されているか。

2 試験問題の範囲・内容等

出題範囲は、「地理A」で取り上げる内容におおむね合致している。出題内容は、平成21年告示高等学校学習指導要領の目標や内容に沿った総合的な学力を問う良問が多く、ほとんどの問題で図表や写真が使用されており、思考力や時間内での正確な判断力を問う問題となっている。しかし、中には「地理A」（標準単位2）としては、詳細な知識であると捉えられる問題や、正解を導く基準が不明瞭な問題も散見された。

(1) 出題分野

- 第1問 地理の基礎的事項及び日本の自然環境と災害
- 第2問 世界の生活・文化
- 第3問 ラテンアメリカ
- 第4問 地球的課題
- 第5問 壱岐島（長崎県壱岐市）の地域調査

(2) 内 容

第1問 地理の基礎的事項及び日本の自然環境と災害に関する問題。問1～5までは地理の基礎的事項に関して幅広く出題されている。問6～8までは日本の自然災害の影響と人々の生活について、写真や地図の読図から幅広く考察させる出題となっている。

問1 地図には時代や社会的背景があることを読み取らせる良問である。

問2 図法の特徴を問う基本的な問題である。

問3 世界の代表的な植生景観とそこに住む人々の人間活動を地図から考察させる良問であ

る。

問4 諸地域の地形環境を理解した上で地球的課題を表から判定する応用力を問う問題である。

問5 乾燥地域における自然環境の地理的用語を理解できているかを問う問題である。

問6 沖積平野でみられる自然災害への対応事例について防災用語の知識を問う問題である。

問7 複数の液状化現象の画像と説明文から災害を引き起こす原因を考察する問題である。

問8 旧版地形図から自然災害の危険を読み解く問題である。浜堤地形の標高点や地図記号の読み取りに時間が要求される。

第2問 「地理A」の特徴である「世界の生活・文化」に関する問題。

問1 世界遺産の宗教建築物について写真の読み取り知識が問われた問題。事例地域を地図上から判断させる等、地理的認識で考察させるような工夫が欲しい。

問2 多民族国家としてインドネシアを事例として扱うことは少なく、判断が困難である。

問3 日々の生活の中にあるグローバル化を問う問題。選択肢の文章表現に工夫が求められる。

問4 世界の主食の分布を地図の位置から考察させる基本的な問題である。

問5 気候要素と農産物から、地域の特徴を地図中から考察させる良問である。

問6 食料供給量とそれに占める牛乳・乳製品の割合から該当する国を選択すると同時に、食料供給量と経済水準の相関関係を考察する問題である。

第3問 昨年度は小問として扱っていた地誌的な設問が大問として出題された。ラテンアメリカを事例地域とし地誌的な思考力を問う。一部に「地理A」では一般的でない出題が見られた。

問1 海岸地形の衛星画像を地図上から判断する良問であるが、画像の説明が大きなヒントとなっている。

問2 地図上の各地の気候を雨温図から判断する地理的スキルが求められる頻出問題である。

問3 歴史的背景が反映されたラテンアメリカ諸国の特徴的な人口構成を問う問題。解答形式が語句選択で知識偏重になっていることから工夫が望まれる。

問4 画像と文章から食文化と自然環境を問う「地理A」的な良問である。

問5 ラテンアメリカの農作物の産地を自然環境と地図中の位置から考察する問題である。

問6 ラテンアメリカの社会経済的状況を大観した問題であるが、大土地所有制の文に曖昧な表現があったため受験者にとって難問となった。

問7 主題図から地理的視点で経済的・文化的・歴史的な背景を思考させる問題である。

第4問 地球的課題に関する問題。人口、食料、エネルギー、環境問題など、地球的課題を基礎的事項から出題されている。教科書の内容を、視点や切り口を変えて提示しており、知的好奇心が湧く出題が多かった。昨年度出題された「世界の結びつき」に関する問題はなくなった。

問1 地域の規模を踏まえて人口の推移を伸び率から考察させる良問である。

問2 三つの国群の人口と福祉の特徴について、公的政策との関係性を考察する良問である。

問3 アフリカで食料問題が発生する背景を多方面から考察させる問題である。

問4 資源の偏在やエネルギー消費量の特徴を図表から判断する頻出問題である。

問5 森林減少の成因について、地域的に異なることを理解できているかの知識が問われる。

問6 環境保全に向けた取組を模式図と用語から判断する工夫された良問である。

第5問 長崎県壱岐市の地域調査に関する、全問「地理B」との共通問題。地理的な見方や考え方及び地理的スキルを問い、地域の変容や人々の暮らし方を考察させる出題内容である。

問1 地勢図を大観し地形を読み取る地理的スキルを問う問題だが、標高や文字が見えづらい。

- 問2 新旧の地形図から、乾田等の地図記号や土地利用の変化を読み取判断する難問である。
 問3 景観写真を地形図の等高線や地図記号などから判別させる良問である。
 問4 伝統的民家の模式図とその地理的な要因を考察する。基本的な地理用語で判断できる。
 問5 会話文と表1の関連性が低く、選択肢が単純な知識を問いており工夫がほしい。
 問6 三つの指標から島嶼部と都市部の特徴を考察し、主題図から読み取らせる良問である。
 長い指標は「 」や“ ”などで括りを明確にする配慮があっても良いと思われる。
 問7 自然災害や防災について、地域調査の目的とその方法について考察する良問である。

大問	小問	解答番号	難易度			出題形式					解答方法			出題分野							
			基本	標準	発展	地図	図表	画像 写真	地図 図表	地図 画像	文章	語句 事項	文の 選択	組合 せ	(1)			(2)			
															ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	
1	1	1		○		○						○			○						
	2	2	○								○		○			○					
	3	3		○		○						○				○					
	4	4			○		○					○					○				
	5	5		○							○			○							
	6	6		○							○		○								○
	7	7	○					○					○								○
	8	8		○			○							○							○
2	1	9	○					○				○					○				
	2	10		○							○		○				○				
	3	11	○								○		○				○				
	4	12		○		○								○			○				
	5	13		○		○					○		○				○				
	6	14			○			○				○					○				
3	1	15	○							○			○				○				
	2	16		○					○			○					○				
	3	17			○						○	○					○				
	4	18		○				○						○			○				
	5	19		○		○					○		○				○				
	6	20			○						○		○				○				
	7	21		○			○						○				○				
4	1	22			○		○					○						○			
	2	23			○		○							○				○			
	3	24		○							○		○					○			
	4	25		○				○				○						○			
	5	26		○							○		○					○			
	6	27			○			○						○				○			
5	1	28		○		○							○						○		○
	2	29			○	○							○						○		○
	3	30		○						○				○							○
	4	31	○							○			○								○
	5	32		○			○					○			○						○
	6	33			○	○								○							○
	7	34		○							○		○							○	○
今年度合計			6	19	9	10	7	3	1	3	12	8	16	10	2	16	6	2	4	7	
昨年度合計			7	17	10	10	9	1	3	4	※7	8	11	15	10	10	5	9	5	6	
平成27年度			-	-	-	10	10	2	5	2	5	11	15	8	旧課程						

【出題分野は平成21年告示学習指導要領による】(※出題形式が「文章のみ」)

- (1)=現代世界の特色と諸課題の地理的考察 (2)=生活圏の諸課題の地理的考察
 ア=地球儀や地図からとらえる現代世界 ア=日常生活と結び付いた地図
 イ=世界の生活・文化の多様性 イ=自然環境と防災
 ウ=地球的課題の地理的考察 ウ=生活圏の地理的な諸課題と地域調査

3 程 度・分 量

- (1) 問題の程度 (各小問の難易度は上の表にて3段階にまとめた。)

本試験において、平均点が57.08点となり、難易度は平均並みか若干易化した印象であった。しかし昨年に引き続き、最高点が100点に達していない。これらの要因として、以下2点にまとめた。

- ① 教科書で取り上げられないことがない事項や国が見られた。
- ② 選択して取り扱うとされている項目について、細かな知識を問う問題があった。

(2) 解答数

大問数は5問、設問数は34問、解答数は34問であり、試験時間内で解答できる内容であった。

4 形式・表現

(1) 形式（小問の出題形式と解答方法は、前ページのとおり）

今年度は、地図と文章を絡めた設問が増加した。大問の形式については、地図と写真を用いてテーマを示したもの（第1問・第3問）、図表と文章・画像を中心としたもの（第2問・第4問）、地域調査において地勢図や写真を用いてテーマを示したもの（第5問）とバランス良く構成されている。

(2) 表現

図表には、多様な表現が用いられており、思考力を求めるために工夫されている。また、問題の配置については、大問が左ページから始まり空白ページがない等、解きやすさへの配慮がある。

問題冊子については全ページが白黒印刷であり、図表の中には地勢図などカラー印刷が望ましいものがあるが、模式図やイラスト図を使用するなど配慮が感じられた。冊子のサイズについては、面積の制約から図版が小さく読解が難しくなっているものもあり、A4判の問題冊子が望ましいと考えられる。

5 要 約

「地理A」は受験者が少ない上に、幅広い層の生徒が受験するため、難易度の調整はかなり難しいと考えられるが、今後とも適当な難易度の問題と、基礎的な内容、大観を主とする範囲からの出題、真摯に学習に向き合った受験者の努力が反映される形式の問題作成をお願いしたい。

今年度の本試験では、各小問間の難易差はなく、主題が何であるかが受験者に明確に伝わる図表や写真の工夫が見られた。

また、問題の分析を通して、受験者は写真・図表などの読取能力は高いが、文章と写真・図表の複合的な読み取りを不得手にしている傾向があった。言語活動の充実の面からも、「地理A」科目でも取組みを進める必要性が高いと感じた。

今後のさらなる改善に向けて、次の点を踏まえた問題作成をお願いしたい。

- (1) 「地理A」では作業的、体験的な学習を重視し地理的技能を高めることが学習の狙いの一つである。細かな知識や概念は避けた問題作成をお願いしたい。
- (2) 単調な出題形式を避けるとともに、図表の単純な読取問題とせず思考を伴う工夫や、図表はあるが関連性が薄く選択肢だけで解答できる設問にならない配慮をお願いしたい。
- (3) 「地理A」・「地理B」の共通問題は第5問で出題された。地域調査に関する問題作成は全国の受験者への平等性の確保から極めて困難と推察するが、地域の特異性と全国的な共通性の判断は、地域学習を深めると難しくなることも考慮されたい。

センター試験が高校現場に与える影響は大きく、センター試験が知識偏重から思考力、判断力を求める出題を増やしたことで、高校の授業にも変化が見られる。今後とも継続して質の高い出題をお願いしたい。最後に、今年度問題作成に当たられた諸先生方の御努力に敬意を表したい。

地 理 B

1 前 文

平成29年度の大学入試センター試験「地理B」の受験者数は150,723人で昨年度より2,794人増え、ここ数年増加を続けている。昨年度増加に転じた「世界史B」は本年度、更に3,433人増え、「日本史B」は3年連続で増加し6,684人増加となった。

本年度の「地理B」の平均点は62.34点となり、昨年度と比べて2.24点上がった。これにより「地理B」は「世界史B」(65.44点)より3.1点下回り、「日本史B」(59.29点)より3.05点上回った。昨年度の平均点は「地理B」が60.10点、「世界史B」が67.25点、「日本史B」が65.55点であり、本年度のB科目間の差はやや縮小したが、いまだ6点差がある。今後も公民科の科目を含めて、平均点の差異による受験者間の有利不利が生じないように十分な配慮をお願いしたい。

試験問題の評価については、これまでと同様、次の7視点から行った。

- (1) 高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）に準拠し、教科書や学習活動の実態を踏まえた内容になっているか。
- (2) 地図や図表・統計資料を分析・考察し、処理する能力を測定する内容になっているか。
- (3) 特定の分野に偏らず、総合的に「地理的な見方や考え方」を問う内容になっているか。
- (4) 問題の分量や程度などに配慮しているか。
- (5) 問題文の表現や形式、配点などに配慮しているか。
- (6) 問題の難易度や得点のちらばりなどが適正となるように配慮されているか。
- (7) 過去の問題に対する意見・評価などを考慮して出題されているか。

2 試験問題の内容・範囲等

問題の内容と範囲は、おおむね学習指導要領の目標と内容に沿ったものであった。出題分野は、昨年度から新たに入った比較地誌を含んだ分野構成を踏襲し、自然環境、資源と産業、都市・村落と生活文化、地域調査及び地誌の5分野であり、偏りなく出題された。いずれも基本的な知識や理解を問う内容を中心に、地図、図表、統計資料の読み取りなど、「地理的な見方や考え方」及び「地理的技能」を問う内容がバランス良く配置された。災害と防災については、大問の設定はされていないものの、小問として4題がそれぞれ異なった観点から出題され、いずれも思考力を問う工夫された良問だった。大問数は6題、小問数は35題で昨年度と同じ構成だったが、昨年度から都市・村落と生活文化で1題減り、「地理A」と共通の「地域調査」で1題増えて7題となった。全体として思考力を重視する適切な改善が見られた。

(1) 出題分野

- 第1問 世界の自然環境と自然災害
- 第2問 資源と産業
- 第3問 都市・村落と生活文化
- 第4問 中国の地誌
- 第5問 スペインとドイツの地誌
- 第6問 長崎県壱岐市と周辺地域調査

過去6年の出題分野

出題分野	平成24年度	平成25年度	平成26年度
自然環境	世界の自然環境と自然災害	世界の自然環境	世界の自然環境
資源、産業	世界の農牧業	産業構造の変化と産業の立地	世界の資源と産業
都市・村落、生活文化	都市と村落、生活文化	都市と村落、生活文化	都市と生活文化
地域調査	静岡県大井川流域（東海）	徳島県鳴戸市と周辺（四国）	愛知県知多半島周辺（東海）
世界地誌	北アメリカ	地中海地域	西アジアとその周辺地域
現代世界の諸課題	現代世界の諸課題	現代世界の人口と民族の諸問題	現代世界の諸課題
出題分野	平成27年度	平成28年度	平成29年度
自然環境	世界の自然環境と自然災害	世界の自然環境と自然災害	世界の自然環境と自然災害
資源、産業	世界の農業	世界の工業	資源と産業
都市・村落、生活文化	都市と村落	都市・村落と生活文化	都市・村落と生活文化
地域調査	北海道富良野市と周辺（北海道）	岩手県北上市と周辺（東北）	長崎県壱岐市と周辺（九州）
世界地誌	南アメリカ	ヨーロッパ インドと南アフリカ共和国	中国 スペインとドイツ
現代世界の諸課題	現代世界の諸課題		

(2) 内 容

第1問 世界の自然環境と自然災害に関する大問である。地形や気候の基礎的知識とともに、図表を読み取った結果を組み合わせる思考する問題が多い。難易度は標準である。

問1 4地点の海底地形の断面図から、世界の大地形の認識を問う選択問題である。線Cに大陸棚が広がることは受験者になじみがなく、判別がやや難しいだろう。

問2 海氷の分布を通して自然のつながりを問う良問である。海流の流れを把握していなくても、大陸の西岸と東岸での気候の違いから推測でき、地点の選定が適切である。

問3 ほぼ同緯度にある4地点について、大陸の西岸と東岸、また沿岸部と内陸部の気候の特色の対比を問う選択問題である。対比する上で適切な地点が選定されている。

問4 海岸地形の名称と成因を問う正誤問題である。狭い範囲内に多様な地形を見ることができ適切な地域が取り上げられている。問うている地形も典型的なものである。

問5 大陸別の災害状況をグラフから思考する組合せ問題である。水害や地震など災害の内容をイメージできる工夫があれば、受験者にはより実感がわきやすくなるだろう。

問6 火山防災マップを読み取る正誤問題である。ハザードマップを用いた実際的な問題であり、噴火終息後も発生しうる土石流にも言及した、啓発性のある問題である。

第2問 資源と産業に関する大問である。基礎的知識を問うだけでなく、最近の動向も押さえているかを問う工夫された設問が多い。難易度は標準である。

問1 日本の農業や食品流通の現状に関する正誤問題である。教科書の記述に沿った基本的事項を問う問題である。

問2 世界の農業の特色を示す指標から、地域を問う選択問題である。農業の規模と産業としての比重を大陸別に大まかに把握できているかを問う、基本的な問題である。

問3 バイオマスエネルギーの原料や、その活用の利点と欠点を問い、多面的な見方を要求する良い問題である。

問4 先進国のエネルギーと鉱工業の現状を問う選択問題である。特徴ある国を特定したのち、消去法でドイツを選んだ受験者が多いだろう。

問5 石炭に関する世界地図を用いた組合せ問題であり、例年見られる形式である。基本的な知識を問う内容で、平易であるが、地理的な見方を問う重要な問題である。

問6 三つの都市の工業の特徴を選ぶ問題である。代表的な都市が選定され基本的な問題である。更に地図を絡めた設問とすれば、受験者に地図の活用を促すことになる。

第3問 都市・村落と生活文化に関する大問である。日本を世界の中の一国と位置付けて比較対照させる工夫も見られ、適切である。難易度は標準である。

問1 各都市の住宅景観の写真を読み取り、思考する問題で、写真が効果的に用いられている。モスクワの集合住宅が郊外にあることを写真から判断するのは難がある。

問2 各国の都市や村落の成り立ちの知識をみる問題である。長安やエッセンなど、やや細かい地名が問われたが、歴史的観点を絡めた良い設問である。

問3 各国の地域間格差の認識を問う問題である。オーストラリアの特定は比較的容易だが、選択肢には特定するのが困難な国も含まれていて、やや難解である。

問4 東京圏の人口増加の地域的変化に関する選択問題である。時代背景が十分に理解できていない受験者には難易度が高いと思われるが、読み取り技能を問う良問である。

問5 日本の老年人口に関する正誤問題である。単純な読み取りで解け、かなり平易である。データから推測できることを重視する設問だと、適度な難易度となるだろう。

第4問 中国の地誌に関する大問である。自然、産業、社会問題がバランス良く問われ、地理的な考え方を重視した問題である。一国の内部も問われ、難易度はやや難である。

問1 各地域の地形に関する選択問題である。地理的な見方を問う基本的な問題である。

問2 各地点の気候に関する選択問題で、標高、隔海度、風系から総合的に判断する技能を問う良問である。難易度は高いが、特色のある適切な地点が選定されている。

問3 農作物の産地を問う組合せ問題である。地形、気候、都市分布などから答えを導き出す、思考力を問う良問である。

問4 大気汚染の現状と原因に関する正誤問題である。単なる恒常風の名称の正誤となり、図が活かされていないが、大気汚染の地域性を考えさせる意義のある問題である。

問5 二つの都市の特徴に関する選択問題である。両都市を比較する観点の文はないが、社会の情勢や格差に関する理解を問う適切な問題である。

問6 少数民族に関する正誤問題である。少数民族を取り巻く問題の現状を正しく認識しているかを問う、基本的な問題である。

第5問 スペインとドイツを扱った比較地誌の大問である。高度な思考力を要求される問題もあり、難易度は高い。

問1 両国の標高と降水量の分布を判定する組合せ問題である。図で標高が大きく誇張されていることや、気候の季節変化が問われていないため、難易度は高い。

問2 両国の農産物の産地に関する選択問題である。各農産物の栽培条件の理解を前提として、気候をもとに分布を推測する思考力を問う、良問である。

問3 両国の都市に関する組合せ問題である。国内の都市分布に関する理解は受験者に乏しく、参照するデータの提示がないところに難点があり、難易度はかなり高い。

問4 4か国の貿易に関する選択問題である。各国の結びつきを基本的な形式で問う平易な問題である。

問5 両国の移民と外国旅行に関する正誤問題である。両国の特徴が適切に対比された文章となっており、基礎的な知識と確実な読解力を問う、良い問題である。

第6問 長崎県壱岐市とその周辺地域調査に関する大問で、「地理A」との共通問題である。地図を読み取る技能を基礎とし、資料から地域の特色を思考する能力を問う、やや易しい問題である。

- 問1 地勢図から地形を読み取る選択問題である。三角点の標高を読み取るごく平易な問題である。
- 問2 地形図の新旧比較を読み取る選択問題である。地図を丁寧に読み取る技能を問う適切な問題であるが、渡船の記号などやや細かい読み取りも必要とされる。
- 問3 地勢図から地形を読み取り、景観写真を選択する問題である。起伏が明瞭に判別できる適切な地点である。
- 問4 壱岐島の位置と模式図から樹林の形成要因を考える地理的思考力を問う良問である。
- 問5 会話文の空欄に語を入れる、実際の地域調査に即した形式である。表を適切に読み取る力を問い、平易である。
- 問6 地域の基礎データをもとに各指標を考える組合せ問題である。多種のデータを組み合わせて社会課題を発見するための地理的な見方を問う、優れた問題である。
- 問7 地域調査の手法に関する、標準的な難易度の正誤問題である。

3 要 約

(1) 問題の程度

基本的な知識があれば解答できる問題から、資料の読み取りを基に思考力・判断力を要する問題まで、幅広く取り扱われた。多様なグラフ・統計地図や画像から、地形・気候等の自然環境や、歴史・経済等の社会環境を基に考察し、答えを導き出すような設問が、分野・地域等の偏りなく出題された。二つの国を比較して考察する比較地誌は、昨年度に引き続き大問での設問となった。

災害や防災に関する問題が、4題出題された。そのほか、民族、移民やエネルギー問題など、今日的課題と関連する内容が出題されており、単に知識の量を問うのではなく、地理の学習によって得られた資質・能力を、将来の社会に役立てていくという意図が感じられる出題であった。

本年度も、教科書の記述や掲載されている図表と比較すると、やや難解に感じる設問や図表等も散見されたが、受験者にとっては昨年度よりは解答しやすい出題となったのではないかと見られる。

(2) 設問数・配点・形式等

設問数は大問6題、小問35題で構成されており、昨年度と同じであった。配点は、3点が30題と2点が5題であったが、2点問題は単純な知識を問う問題が多い。設問及び出題形式は右表のとおりである。設問形式については、文章の正誤を問う問題、選択問題、組合せ問題がほぼ均等で、バランスのよい出題となっている。また、出題形式については、文章のみの問題が減少するとともに、地図と図表を組み合わせた問題（統計地図による出題を含む）が大きく増加している。

設問形式による分類	H29	H28
文章の正誤	11	8
選択	13	15
組合せ	11	12

出題形式による分類		H29	H28
文章のみ		7	11
地理的 技能	地図使用	7	7
	図表使用	6	8
	画像使用	1	1
	地図と図表	13	7
	地図と画像	1	2
	図表と画像	0	0
地図と図表と画像		0	0

(3) おわりに

昨年度の本試験と比較すると、出題文以外に注釈の読み取り及び解釈を要する設問が減少するとともに、判断に迷う選択肢が減少した印象があり、そのことが平均点の上昇につながったものと推察される。本年度平均点は、昨年度から上昇し、「日本史B」のそれを上回った。また、統計の選択や図表等の作成が吟味さ

れており、思考力・判断力を適切に問うた良問が多い。問題評価の7視点から見ても、多くの項目において目標を達成しえたものと判断する。

しかし、出題された問題には、読み取りに苦勞する図表や統計地図や、その資料を組み合わせた意図が分かりづらいものも含まれていた。問題作成委員には、より適切な図表や統計地図の選択を求めるとともに、高等学校においては、日常から統計地図に慣れさせ、適切な読み取りができる能力を身に付けさせるとともに、他科目の内容や時事問題等を関連付けた多面的な理解を促すことに努めなければならない。

また、昨年度から高得点者の数は増えたものの、標準偏差が他のB科目よりも低い傾向は変わらない。「地理B」の受験者数は増加傾向にあることから、今後も他科目との差ができるだけ生じないための配慮はもとより、受験者たちの努力が報われるような適切な出題をお願いしたい。